

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

令和5年2月15日 午後用
---------------

## 第74回獣医師国家試験 実地試験問題 (D)

### 注意事項

1. 問題数は60問であり、解答時間は2時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを1つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1問につき2つ以上マークした場合には、そのうちの1つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうちE 3 ☑を横線で、  
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ずHBの鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの  
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特  
に注意すること。



課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。

犬、ドーベルマン、雄、6歳齢。頭を下げて歩くとの主訴で来院。前肢のナックリングと歩幅の短縮、後肢のナックリングと歩幅延長を示す歩様異常が認められた。〔図1-A, B, C〕は頸部脊髓造影X線側方像（A：牽引位、B：屈曲位、C：伸展位）である。

別冊D  
図1-A, B, C

問1 脊髓造影所見として正しいのはどれか。

- a 牽引位で硬膜内に造影欠損像が認められる。
- b 屈曲位で第6頸椎に異常な骨新生が認められる。
- c 屈曲位で第6頸椎の変位が認められる。
- d 伸展位で脊柱管の狭窄が認められる。
- e 伸展位で第4-5頸椎間の椎間腔狭小化が認められる。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問2 最も疑われる疾患はどれか。

- 1. ハンセンI型椎間板ヘルニア
- 2. 硬膜内髄外腫瘍
- 3. 脊髓くも膜憩室（くも膜嚢胞）
- 4. 肉芽腫性髄膜脳脊髄炎
- 5. 尾側頸椎脊髓症（ウォブラー症候群）

課題2 次の文を読み、問3、問4に答えよ。

〔図2 - A〕は死亡羽数増加の届出を受けて立ち入り検査をした際にみられた鶏の頭部の外貌である。〔図2 - B〕はその鶏の脾臓、〔図2 - C〕は大脳皮質の病理組織像（HE染色）である。

別冊D  
図2 - A, B, C

問3 最も疑われる疾患はどれか。

1. ヒストモナス症
2. 鶏伝染性コリーザ
3. 鶏脳軟化症
4. 頭部腫脹症候群
5. 高病原性鳥インフルエンザ

問4 この疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a トリメタニューモウイルスなどの上部呼吸器感染後に発病する。
- b 肝臓では菊花状壊死巣が認められる。
- c 水禽類がこの病原微生物を保有している。
- d 亜急性経過例では非化膿性脳炎像が認められる。
- e *Avibacterium paragallinarum* の感染によっておこる。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題 3** 次の文を読み、問 5、問 6 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、雌、13 歳齢。右前肢第 5 指の腫大および跛行を主訴に来院。病変部に疼痛が認められた。〔図 3 - A〕は病変部の肉眼像、〔図 3 - B〕は前肢の X 線前後像、〔図 3 - C〕は病変部の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、×400）である。

別冊 D 図 3 - A, B, C
-----------------------

**問 5** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 深在性膿皮症
2. 扁平上皮癌
3. 悪性黒色腫
4. 骨髄炎
5. 肥満細胞腫

**問 6** 本疾患の治療として最も適当なのはどれか。

1. 抗菌薬の投与
2. 断指などの外科的切除
3. シクロフォスファミドの投与
4. 放射線治療
5. 病変部のデブリードマン

課題4 次の文を読み、問7、問8に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、避妊雌、3歳齢。右後肢の跛行を主訴に来院。  
〔図4-A, B〕は膝関節の単純X線像（A：右側、B：左側）、〔図4-C〕は前後像である。

別冊D  
図4-A, B, C

問7 画像所見として適当なのはどれか。

- a 内側半月の損傷
- b 膝蓋下脂肪体の変位
- c 内側関節周囲の肥厚
- d 外側半月の損傷
- e 軟骨下骨の吸収像

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問8 最も疑われる疾患はどれか。

- 1. 後十字靭帯断裂
- 2. 膝蓋骨内方脱臼
- 3. 前十字靭帯断裂
- 4. 軟骨肉腫
- 5. 膝蓋骨外方脱臼

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

牛乳の衛生指標細菌検査を行った。牛乳を液体培地 (A) に接種して培養したところ〔図 5 - A〕の変化がみられた。この培養液を寒天培地 (B) に接種したところ〔図 5 - B〕のコロニーが得られた。

別冊 D  
図 5 - A, B

問 9 A および B の培地の組合せとして正しいのはどれか。

- | A          | B                 |
|------------|-------------------|
| 1. 乳糖ブイヨン  | EMB 寒天培地          |
| 2. 乳糖ブイヨン  | デソ (オ) キシコレート寒天培地 |
| 3. BGLB    | EMB 寒天培地          |
| 4. BGLB    | デソ (オ) キシコレート寒天培地 |
| 5. EC ブイヨン | マッコンキー寒天培地        |

問 10 この衛生指標細菌に関する記述として適切なのはどれか。

1. グラム陽性桿菌である。
2. 手指汚染の指標である。
3. 乳糖を分解してガスおよび酸を産生する。
4. 水道水の水質基準項目に含まれる。
5. 検出されるほぼ全ての細菌は病原細菌である。

**課題 6** 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、5 歳齢。元気食欲の低下を主訴に来院。白血球数  $31,200 / \mu\text{l}$ 、赤血球数  $1.7 \times 10^6 / \mu\text{l}$ 、Ht 値 11 %、ヘモグロビン濃度 3.7 g/dl、血小板数  $55 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 。〔図 6 - A, B〕は末梢血塗抹標本（ライトギムザ染色、A :  $\times 100$ 、B :  $\times 600$ ）である。

別冊 D  
図 6 - A, B

**問11** 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 免疫介在性溶血性貧血
2. 微小血管性溶血性貧血
3. 急性出血
4. 再生不良性貧血
5. 鉄欠乏性貧血

**問12** 本疾患・病態に関する記述として最も適当なのはどれか。

1. 病変部の外科的摘出が必要である。
2. 播種性血管内凝固を併発することがある。
3. 確定診断には骨髓検査が必要である。
4. 迅速な止血が必要である。
5. 多くは自然治癒する。



**課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。**

牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。元気食欲がなく、徐々に消瘦してきた。〔図7-A〕は症例の頭部の外貌（矢頭）、〔図7-B〕の矢印は右肩頭側に認められた腫瘤、〔図7-C〕は腫瘤の細針吸引細胞診像である（ライトギムザ染色、×1,000）。

別冊 D  
図7-A, B, C

**問13** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 牛伝染性リンパ腫
2. 伝染性角結膜炎
3. 扁平上皮癌
4. 乳頭腫
5. 緑内障（牛眼）

**問14** 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

1. 自家ワクチンの投与には一定の効果がある。
2. イエバエの駆虫が予防に有効である。
3. 特別な治療をしなくても自然退縮することが多い。
4. 早期の外科的切除術で治癒することが多い。
5. 垂直感染が生じる。

**課題 8** 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

100 戸の酪農場で感染症 X の保有状況を調査したところ、35 戸から病原体が分離された。〔表 8〕は各農場の搾乳牛の頭数に基づいて大規模農場と小規模農場に分類し、それぞれにおける病原体の分離状況をまとめたものである。

<b>別冊 D</b> <b>表 8</b>
---------------------------

**問15** この研究手法はどれか。

1. コホート研究
2. 横断研究
3. 生態学的研究
4. 症例対照研究
5. 介入研究

**問16** 農場が大規模であることと病原体分離との関連の度合いを示すオッズ比の計算式はどれか。

1.  $(20 \times 10) \div (25 \times 45)$
2.  $45 \div 100$
3.  $35 \div 100$
4.  $(25 \times 45) \div (20 \times 10)$
5.  $(25 \div 45) \div (10 \div 55)$

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

全血急速凝集反応検査で陽性を示した採卵鶏を解剖した卵巢で〔図9-A〕のような所見が得られた。〔図9-B〕はDHL寒天培地での分離像である。

別冊D  
図9-A, B

問17 最も疑われる疾患はどれか。

1. 伝染性ファブリキウス嚢病
2. ひな白痢
3. 家きんコレラ
4. 産卵低下症候群
5. マレック病

問18 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 病原菌は運動性がある。
- b 「家畜伝染病予防法」における届出伝染病に指定されている。
- c 宿主はげっ歯類である。
- d 介卵感染する。
- e 水平感染する。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

牛、交雑種、雄、3 週齢。1 週間前から呼吸促迫、喘鳴音、運動時の発咳が認められた。〔図 10〕は頸胸部の X 線側方像である。

別冊 D

図 10

問19 X 線所見として適切なのはどれか。

- a 食道の腫瘍
- b 肩関節の脱臼
- c 気管の狭窄
- d 肋骨の骨折
- e 上腕骨の骨融解

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問20 画像上の異常の原因として最も疑われるのはどれか。

- 1. 先天的な肩関節の奇形
- 2. 腫瘍による圧迫
- 3. 不適切な分娩介助
- 4. 分娩直後の臍帯部からの感染
- 5. 誤嚥性の肺炎

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

〔図 11 - A, B〕 は家畜に中毒を引き起こす有毒植物の写真である。

別冊 D 図 11 - A, B
---------------------

問21 この植物はどれか。

1. ヨウシュチョウセンアサガオ
2. オクラ
3. シキミ
4. オオオナモミ
5. モロヘイヤ

問22 この植物に含まれる有毒物質はどれか。

1. コルコロシド
2. オレアンドリン
3. オクラトキシン A
4. アコニチン
5. グラヤノトキシン

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

馬、サラブレッド種、雄、3か月齢。発熱、元気消失、食欲不振、呼吸器症状を示したのち、重度の努力性呼吸、呼吸困難となったため安楽殺した。〔図 12〕は肺の肉眼所見である。

別冊 D

図 12

問23 最も疑われる疾患はどれか。

1. 気腫疽
2. ロドコッカス・エクイ感染症
3. 類鼻疽
4. 腺疫
5. 破傷風

問24 この疾患に関する記述として適当でないのはどれか。

1. 経気道感染が主な感染経路と考えられる。
2. 化膿性関節炎を併発することがある。
3. 肺炎型では気管洗浄液の検査が診断に有用である。
4. 治療にはゲンタマイシンとセファロチンを併用する。
5. 予防にはワクチン接種が有効である。

**課題13** 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

犬、トイ・プードル、去勢雄、14 歳齢。呼吸促迫を主訴に来院。身体検査では収縮期心雑音が聴取された。〔図 13 - A, B〕は胸部 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D 図 13 - A, B
---------------------

**問25** 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 胸腺腫
2. 心原性肺水腫
3. 吸引性肺炎
4. 気管支炎
5. 胸水貯留

**問26** 本症例の治療法として最も適当なのはどれか。

1. 抗菌薬の投与
2. 放射線治療
3. 気管支拡張薬の投与
4. ループ利尿薬の投与
5. 胸腔ドレーンの設置

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、3 週齢。激しい水様下痢が数日間持続し、脱水を呈して衰弱した。〔図 14〕は下痢便の塗抹像（Kinyoun 抗酸染色）で、矢印で示す病原体が多数検出された。

別冊 D

図 14

問27 最も疑われる病原体はどれか。

1. アイメリア (*Eimeria bovis*)
2. ネオスポラ (*Neospora caninum*)
3. クリプトスポリジウム (*Cryptosporidium parvum*)
4. バクストネラ (*Buxtonella sulcata*)
5. 腸トリコモナス (*Pentatrichomonas hominis*)

問28 この疾患または病原体に関する記述として適当なのはどれか。

1. トルトラズリルによる治療が有効である。
2. 自家感染を起こす。
3. ヒトへの寄生例はない。
4. 診断には虫体培養が有効である。
5. 病原体は波動膜を有する。



**課題15** 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、フラットコートド・レトリバー、去勢雄、6歳齢。散歩後の起立困難を主訴に来院。身体検査では頻脈、低血圧および腹囲膨満を認めた。〔図 15〕は腹部 X線側方像である。

別冊 D

図 15

**問29** X線所見として適切なのはどれか。

1. 胃穿孔により腹腔内に遊離ガスが貯留している。
2. 胃捻転に伴い脾臓が顕著に腫大している。
3. 胃内ガスの膨満で折れ曲がった胃壁ラインが明瞭化している。
4. 胃内容物の停滞が顕著である。
5. 大量の腹水貯留が認められる。

**問30** 本症例でまず実施すべき治療として最も適切なのはどれか。

- a 拡張した胃の減圧
- b 輸液
- c 緊急的胃切開
- d 胃瘻の設置
- e 利尿薬の投与

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

〔図 16〕は長期無発情を呈した7歳の黒毛和種経産牛の血中ステロイドホルモン濃度の推移（上段）と卵巣の動態（下段）である。

別冊 D

図 16

問31 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 卵巣静止
2. 鈍性発情
3. 黄体嚢腫
4. 卵巣萎縮
5. 黄体遺残

問32 本症例の治療に用いられる薬剤として最も適切なのはどれか。

1. eCG (PMSG)
2. 性腺刺激ホルモン放出ホルモン (GnRH)
3. プロジェステロン
4. PGF<sub>2α</sub>
5. エストラジオール

課題17 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

〔図 17 - A～E〕は国内で見られる野生動物である。

別冊 D 図 17 - A, B, C, D, E
------------------------------

問33 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」において特定外来生物に指定されているのはどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

問34 生息数の増加に伴って農作物被害等が発生したことから、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護管理法）」において、指定管理鳥獣に位置付けることで集中的かつ広域的に管理されているのはどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D
5. E

**課題18** 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、去勢雄、9歳齢。3日前からの元気消失、食欲廃絶および頻回嘔吐を主訴に来院。身体検査にて発熱、腹部圧痛および脱水が認められた。〔表 18 - A〕は血液検査結果、〔図 18 - B〕は右上腹部の超音波検査像である。

別冊 D 図表 18 - A, B
----------------------

**問35** 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 急性膵炎
2. 胆管閉塞
3. 腸重積
4. 消化管内異物
5. タンパク漏出性腸症

**問36** 次に実施すべき検査として最も適当なのはどれか。

1. 食前および食後の総胆汁酸値の測定
2. 上部消化管内視鏡検査
3. 試験開腹
4. 膵リパーゼ免疫活性 (PLI) の測定
5. トリプシン様免疫活性 (TLI) の測定

**課題19** 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

猫、雑種、避妊雌、11 歳齢。背部の腫瘤を主訴に来院。〔図 19 - A, B〕は本症例の外貌である。〔図 19 - C〕は腫瘤のコア生検病理組織学的検査像（HE 染色、×400）である。

別冊 D 図 19 - A, B, C
------------------------

**問37** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 扁平上皮癌
2. 線維肉腫
3. アポクリン腺癌
4. 皮下膿瘍
5. 肉芽腫

**問38** 本症例の治療法として最も適当なのはどれか。

1. 外科的切除
2. コルチコステロイドの投与
3. 免疫抑制剤の投与
4. 抗菌薬の投与
5. 抗がん剤の投与

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

〔図 20 - A〕は搾乳改善前、〔図 20 - B〕は改善後にラクトコーダーを用いて測定された乳牛の搾乳過程における乳流量及び電気伝導度の変化である。これらの図では、搾乳を開始した時点を 0 としている。

別冊 D  
図 20 - A, B

問39 改善前の乳流量において、〔図 - A〕の黒丸で示す変化がみられた。原因として最も適当なのはどれか。

- a 乳頭清拭前に前搾りを行った。
- b ストリップカップを使用していなかった。
- c プレディッピングが不十分であった。
- d 前搾りの刺激が弱かった。
- e 前搾り後のティートカップ装着時のタイミングが悪かった。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問40 改善前の電気伝導度において、〔図 - A〕の赤丸で示す変化がみられた。原因として最も適当なのはどれか。

- 1. ライナースリップが発生した。
- 2. 前搾りが不足していた。
- 3. 乳頭清拭が不十分であった。
- 4. 乳頭乾燥が不十分であった。
- 5. ティートカップ装着が不完全であった。

**課題21** 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

犬、ミニチュア・シュナウザー、避妊雌、9歳齢。食後 30 分程度で未消化物を吐くとの主訴で来院。〔図 21〕は、胸部 X 線側方像である。

別冊 D

図 21

**問41** 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 右大動脈弓遺残
2. 巨大食道症
3. 食道裂孔ヘルニア
4. 気管虚脱
5. 胸水

**問42** 治療として適切なのはどれか。

1. 動脈管索の結紮離断
2. 気管支拡張薬の投与
3. 胸腔ドレーンの設置
4. 欠損孔の閉鎖
5. 立位での給餌

課題22 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、8歳齢。今朝分娩し、その直後に起立不能となった。皮温の不整と低下、消化管運動の停止が認められた。〔図 22 - A〕は症例の外貌、〔表 22 - B〕は血液検査所見である。

別冊 D 図表 22 - A, B
----------------------

問43 この症例に対する治療として適切なのはどれか。

1. リン製剤の経口投与
2. プロピレングリコールの経口投与
3. マグネシウム製剤の静脈内投与
4. カルシウム製剤の静脈内投与
5. ビタミン B<sub>1</sub> 製剤の筋肉内投与

問44 本疾患を予防するための乾乳後期の飼料調整方法として適切なのはどれか。

1. カルシウムとリンを増量する。
2. 硫黄含量を制限する。
3. ナトリウムとカリウム含量を制限する。
4. DCAD（飼料中陽イオン・陰イオン格差）を高くする。
5. 尿 pH を高くする。



課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

〔図 23〕は WHO が公表したある人獣共通感染症の発生状況である。

別冊 D 図 23
--------------

問45 この感染症はどれか。

1. サル痘 (M 痘)
2. B ウイルス感染症
3. ニパウイルス感染症
4. エボラ出血熱
5. デング熱・デング出血熱

問46 この感染症の常在地域はどれか。

1. ヨーロッパ
2. 東南アジア
3. アフリカ
4. 北米
5. 南米

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

犬、フレンチ・ブルドッグ、避妊雌、11 歳齢。右膝の皮膚にできものがあるとの主訴で来院。〔図 24 - A〕は、病変部の外貌、〔図 24 - B〕は病変部の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色）である。

別冊 D  
図 24 - A, B

問47 最も疑われる疾患はどれか。

1. 毛芽腫
2. 孤立性形質細胞腫
3. 悪性黒色腫
4. 犬皮膚組織球腫
5. 肥満細胞腫

問48 本疾患に関する記述として最も適当なのはどれか。

1. 腫瘍から放出されるヒスタミンにより周囲の皮膚に紅斑を生じる。
2. メラニン色素を有する細胞がみられる。
3. 腫瘍細胞は B リンパ球クローナリティ陽性になる。
4. 自然退縮することが多い。
5. 皮膚付属器に分化する良性腫瘍である。

**課題25** 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、1 週齢。カーフハッチの柵に肢を引っかけて、動けなくなっていた。すぐに柵から放したが、直後から患肢に負重しなくなった。触診にて異常可動、捻髪音、激しい疼痛を認めた。〔図 25〕は受傷直後の患肢の X 線側方像である。

別冊 D

図 25

**問49** 本症例の X 線検査所見として適当なのはどれか。

1. 脛骨粗面が剥離骨折している。
2. 総踵骨腱の断裂が認められる。
3. 足根下腿関節の脱臼が認められる。
4. 脛骨骨幹の骨折が認められる
5. 病的骨折が示唆される。

**問50** 本症例の治療と予後について適当なのはどれか。

1. この部位での骨折が最も多いが、予後は良い。
2. 骨プレートを用いた内固定は適応ではない。
3. トーマス副子（スプリント）の使用は禁忌である。
4. キャスト固定でも骨折線の転位はほとんど起こらない。
5. 適切に整復固定をしないと二次的な開放骨折になる可能性がある。

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

〔図 26 - A〕は突然死した牛の外貌である。また、〔図 26 - B〕は、牛の血液から分離した細菌を加温しつつマラカイトグリーンで染色し、さらにサフラニンで後染色した際の顕微鏡写真である。

別冊 D 図 26 - A, B
---------------------

問51 最も疑われる疾患はどれか。

1. 壊死桿菌症
2. 結核
3. 炭疽
4. ブルセラ症
5. ヨーネ病

問52 本疾患に関する記述として適当なのはどれか。

1. 有効な生ワクチンがある。
2. 本感染症と診断された牛は経過観察の対象となる。
3. 診断法としてツベルクリン反応がある。
4. 毎年、数例の国内報告がある。
5. 「家畜伝染病予防法」における届出伝染病に指定されている。

**課題27** 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

養殖マダイが散発的に死亡する事例が発生した。病魚は〔図 27 - A〕のような外貌を呈し、剖検すると脾臓や腎臓に結節様小白斑の形成が認められた。〔図 27 - B〕は SS 寒天培地で発育したコロニーである。

別冊 D  
図 27 - A, B

**問53** 最も疑われる疾患はどれか。

1. ビブリオ病
2. 海水魚の滑走細菌症
3. エドワジエラ症
4. ミコバクテリア症
5. 連鎖球菌症

**問54** 本疾患またはその病原体に関する記述として正しいのはどれか。

- a グラム陽性菌である。
- b 15℃以下の低温下でも発育する。
- c 淡水魚・海水魚を問わず発生する。
- d 抗菌剤による治療が行われる。
- e 予防にワクチンが用いられる。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題28** 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、去勢雄、7歳齢。急に立ち上がれなくなったとの主訴で来院。聴診にて心音の聴取が困難であり、粘膜蒼白を呈していた。〔図 28 - A, B〕は胸部 X 線像（A：側方像、B：背腹像）、〔図 28 - C〕は心基部超音波画像（右傍胸骨短軸像）である。

別冊 D 図 28 - A, B, C
------------------------

**問55** 最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 拡張型心筋症
2. 肥大型心筋症
3. 心膜液貯留
4. 腹膜心膜横隔膜ヘルニア
5. 動脈管開存症

**問56** 本症例の治療として最も適切なのはどれか。

1. 開腹手術による欠損孔の閉鎖
2. ピモベンダンの投与
3. カテーテルによる閉鎖デバイスの設置
4. アテノロールの投与
5. エコーガイド下での心膜穿刺

**課題29** 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

犬、雑種、未去勢雄、10 歳齢。肛門付近に矢印で示す腫瘤病変が認められた〔図 29 - A〕。〔図 29 - B, C〕は腫瘤の細針吸引細胞診像（ライトギムザ染色、B：×400、C：×1,000）である。

別冊 D  
図 29 - A, B, C

**問57** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 肛門嚢アポクリン腺癌
2. 肛門周囲腺腫
3. 肉芽腫性炎症
4. 肥満細胞腫
5. 肛門周囲瘻

**問58** 本疾患に関する記述として最も適切なのはどれか。

1. 去勢手術により縮小する。
2. シクロスポリンにより治療する。
3. 抗菌薬により治癒する。
4. 多くの症例で肺転移が生じる。
5. 高カルシウム血症を伴う。

**課題30** 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

猫、メインクーン、避妊雌、3歳齢。2週間前から鼻をすするようになり、昨日から開口呼吸するとの主訴で来院。一般身体検査にて、上部気道閉塞が疑われる呼吸音が聴取された。〔図 30 - A〕は頭部 CT 矢状断像、〔図 30 - B〕は病変部の内視鏡検査像である。

別冊 D  
図 30 - A, B

**問59** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 鼻腔内異物
2. 鼻腔内腫瘍
3. 鼻咽頭狭窄
4. 炎症性ポリープ
5. 軟口蓋過長

**問60** 本症例の治療として最も適切なのはどれか。

1. ポリープの摘出
2. 異物の摘出
3. 放射線治療
4. バルーン拡張
5. 軟口蓋切除









